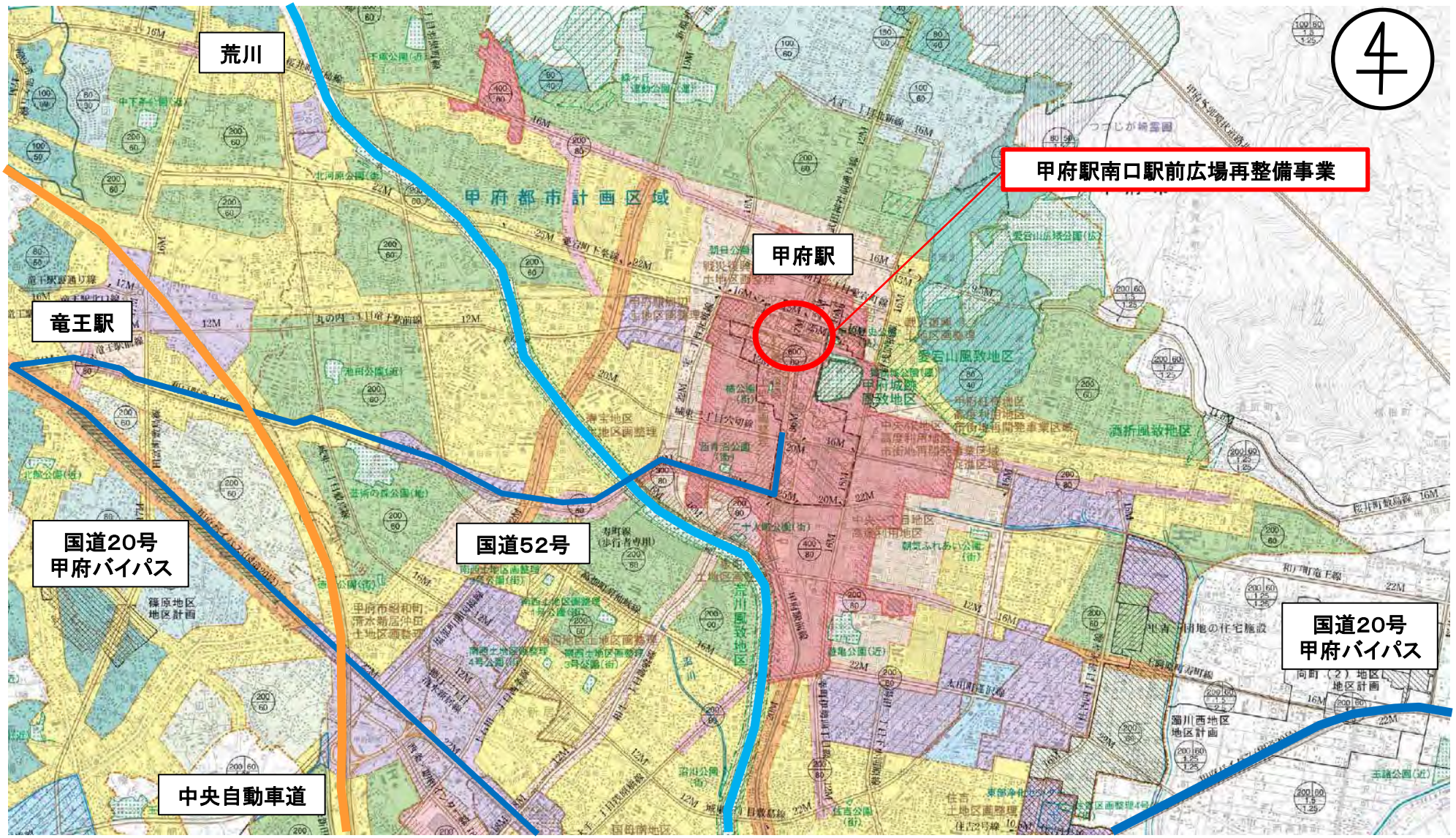
事 業 概 要

ふりがな	やまなしけん　けんどせいびぶ　としけいかくか
応募者名	山梨県　県土整備部　都市計画課
ふりがな	こうふえきみなみぐちえきまえひろばさいせいびじぎょう
事業の名称	甲府駅南口駅前広場再整備事業
ふりがな	やまなしけん・こうふし
事業主体	山梨県・甲府市
ふりがな	やまなしけんこうふし
実施都市名	山梨県甲府市
事業概要 （400字以内）	甲府駅南口駅前広場は、県の玄関口にふさわしい街並みとするため、再整備のコンセプトを「歩行者にやさしい県都の風格が感じられる広場づくり」とした。事業概要としては、効率的な空間利用を実現するため、交通空間の再配置、ロータリーの見直し等を行い、歩行者空間や修景（環境）空間の拡充を行うため、以下の内容を実施した。 ◆整備内容 ①歩行優先の空間づくり → 歩行者空間を確保した上で、駅正面に広場を整備。ユニバーサルデザインにも配慮。 ②安全な交通動線の実現 → 一般交通と公共交通の分離を行い、タクシー配車をショットガン方式として再整備。 ③駐輪場・駐車場の整備 → 自転車や送迎用車両のため、地下駐輪場・一般車ロータリーを整備。 ④緑豊かな空間づくり → 歩行空間を植栽やベンチ等で充実させ、歩行者が憩うことのできる空間を整備。
事業規模	○事業延長：L＝93m　○幅員：W＝36m　（面積　A＝12,200m） ○事業費：約23億円　○事業期間：平成25年度～平成29年度
事業の目的	整備前の甲府駅南口駅前広場は、一般車やバス・タクシーなど車両優先の空間が大部分を占めており、歩行者にとって「目的地へ遠回りを強いられる」「歩行空間が少なく危険」「混雑した車両や看板等で圧迫感がある」など利便性や安全面、景観面での課題があった。再整備に際しては、美しい自然に囲まれた山梨の玄関口であり、訪れる人を優しく迎え入れる公共交通の結節点として、もてなしの心と山梨らしさが感じられる空間づくりを目指した。
事業効果 （効果一覧を参考に具体的な効果を記入）	・生活利便性の向上・・・駅からバス・タクシーへの移動を歩道のみで可とし、安全性や乗り換え等の利便性向上。 ・流通、交通の活性化・・・周辺道路へのアクセスを容易にし、近隣地域や中心市街地の活性化を促した。 ・交通の安全の確保・・・一般交通と公共交通を分離し、明確な動線とすることで、輻輳のない交通を確保した。 ・需要の増加・・・広場機能を整備し、多様なイベント等を開催可能とすることで、集い・賑わいを創出した。
地元対応等 （・地域住民との協働等 ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点）	○整備計画の元となった「甲府駅南口周辺地域修景計画」では、地元住民・学識経験者等の検討委員会や意見交換会、来訪者や地元へのアンケート、学生によるワークショップ等を実施。（平成22年7月～平成24年3月） ○駅前広場の設計に伴い、都市景観や環境色彩分野に関する有識者の立場から、客観的かつ論理的に設計案を評価してもらい、景観に配慮した広場となる様に「デザイン審査会」を実施。（平成26年3月～平成28年10月） ○甲府駅南口駅前広場は段階的に整備・供用を行い、整備全体が完了したタイミングで「甲府駅南口駅前広場オープニングセレモニー」を開催し、全面供用を開始した。（平成29年8月）

事 業 位 置 図

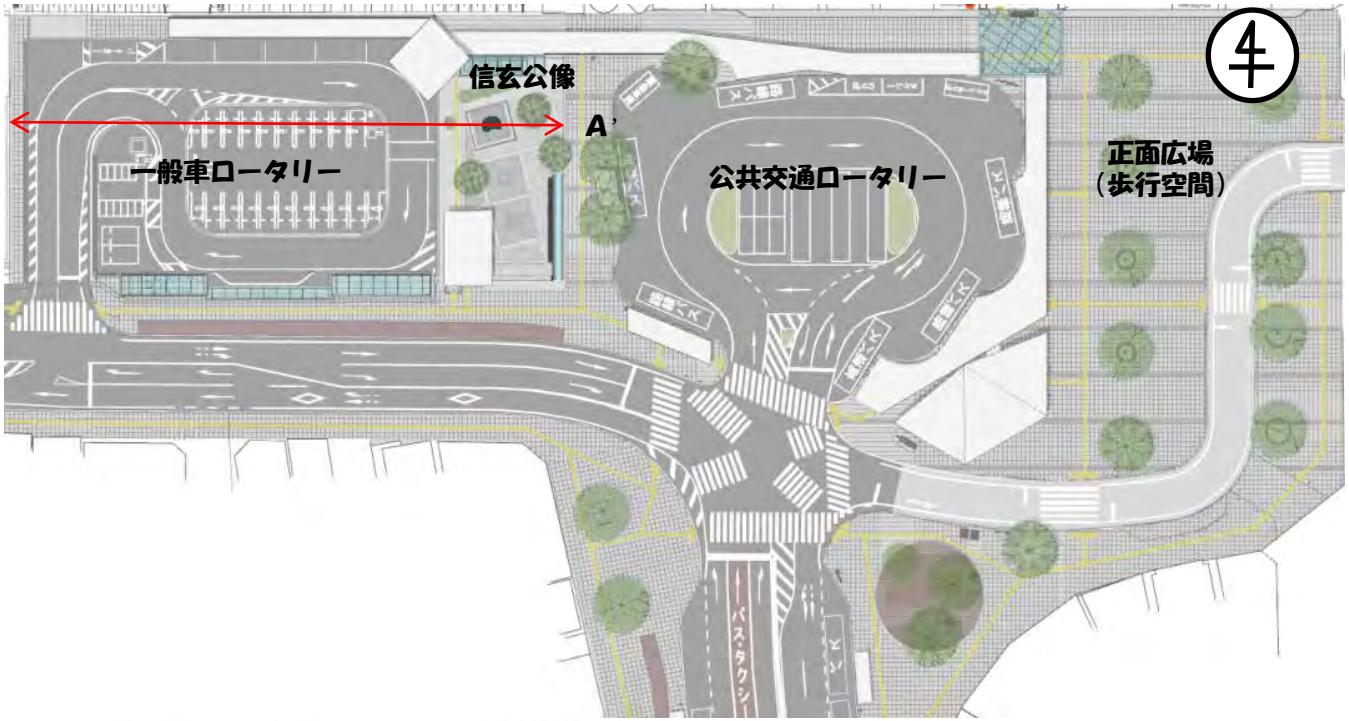
甲府駅南口駅前広場再整備事業
荒川
竜王駅
甲府駅
国道52号
国道20号
甲府バイパス
南甲府駅
中央自動車道
石和温泉駅
国道20号
甲府バイパス
中央本線
500m

都市計画図(用途地域図)



凡例 ：商業地域

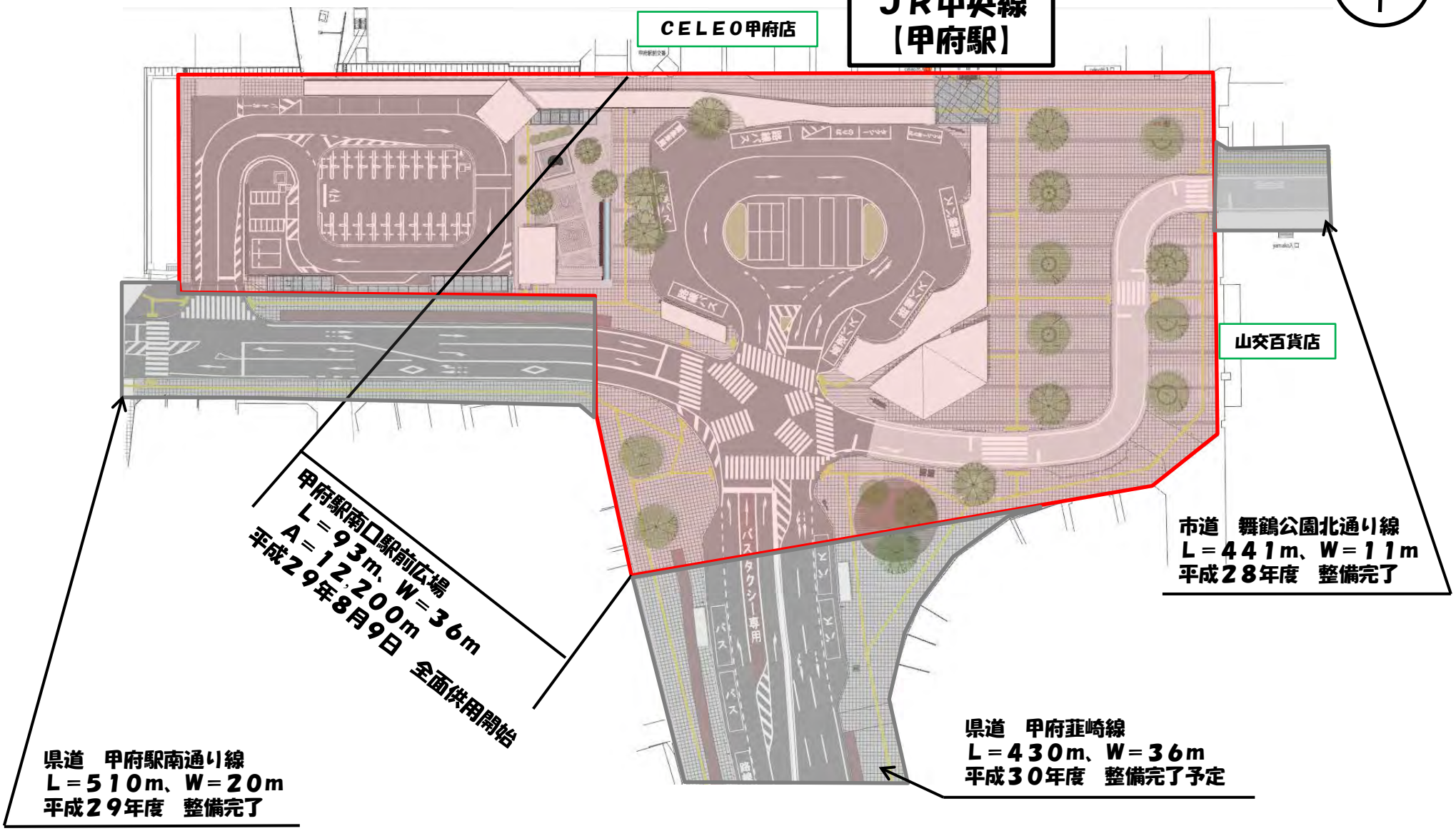
断面図



一般車ロータリー付近　(A-A'断面)

路線全体の進捗状況

④


ＣＥＬＥＯ甲府店
ＪＲ中央線
【甲府駅】
山交百貨店
甲府駅南口駅前広場
Ｌ＝９３ｍ、Ｗ＝３６ｍ
Ａ＝１２,２００ｍ
平成２９年８月９日　全面供用開始
市道　舞鶴公園北通り線
Ｌ＝４４１ｍ、Ｗ＝１１ｍ
平成２８年度　整備完了
県道　甲府駅南通り線
Ｌ＝５１０ｍ、Ｗ＝２０ｍ
平成２９年度　整備完了
県道　甲府韮崎線
Ｌ＝４３０ｍ、Ｗ＝３６ｍ
平成３０年度　整備完了予定
タクシー専用
バス

事　業　前　写　真

（１）駅前広場全体
→一般車・公共交通の混在した交通動線

（２）南口正面（タクシープール）
→待機車両による雑然とした雰囲気

（３）ＪＲ甲府駅から南口方面
→標識や看板で圧迫感のある景観

事　業　後　写　真

（１）駅前広場（公共交通ロータリー）

駅前広場（一般車ロータリー）

→一般交通と公共交通の空間を分離し、明確な動線とすることで、輻輳のない交通動線を実現

（２）南口正面（タクシープール）
→ショットガン方式による待機車両の削減

（３）ＪＲ甲府駅から南口方面
→緑豊かで開放感のある景観

信玄公像広場
→水盤施設等の設置による景観の向上

地下駐輪場
→違法駐輪の根絶、駅利用者の利便性向上

甲府駅南口駅前広場再整備事業の事業効果アピール資料 ①

～歩行者に優しい空間づくり～

1．安全な交通動線の確保

駅とバスの乗り換え時に車両と歩行者が交差
⇒公共交通ロータリーで車両・歩行動線を分離

駅・バス間における動線
歩行者空間のみで乗降可能

車道と歩道が交差（整備前）

乗降場まで歩道のみ（整備後）

2．違法駐輪の根絶

歩道幅員が減少し、通行の支障となる
⇒地下駐輪場の整備・駐輪規制条例の策定等

地下駐輪場（約９００台）等により
広場内**違法駐輪　０台**

幅員が大人２人分のみ（整備前）

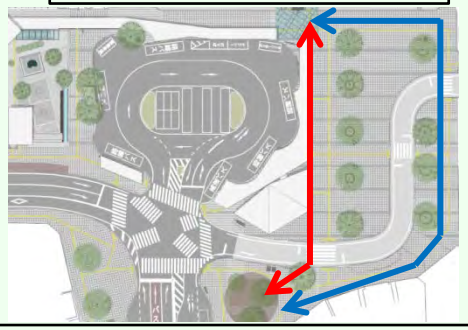
十分な幅員の確保（整備後）

3．駅前広場から周辺への移動円滑化

歩行者や車いす利用者等の周辺施設への迂回軽減
⇒斜行式エレベーターの設置、歩行動線の直線化

駅から主要道路（甲府韮崎線）まで
最大３分短縮（約２３０m⇒約１５０m）

同じ動線で多種の移動方法（整備後）



駅から一直線の歩道(整備後・整備前)

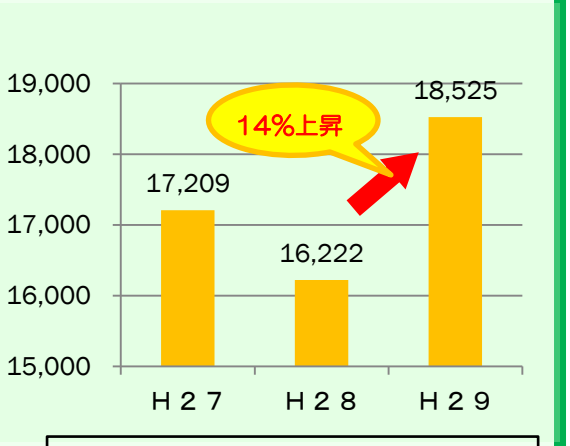
～まちづくり・賑わいの創出～

4. 甲府駅・周辺利用者の増加

駅前広場の整備後、駅周辺の歩行者量が増加
⇒中心市街地や周辺施設等の活性化

1日あたりの歩行者量の増加
14％上昇
（約16,000人⇒約18,000人）

歩行者の様子（整備後）



歩行者量の推移

5. 駅前広場の利活用

憩い・賑わいを生み出す場を整備
⇒利用者・来訪者の増加や賑わいの波及

人が集う広場として
イベント等の利活用が可能

イベント状況 ①

イベント状況 ②

受賞歴・報道資料

2017年8月5日
山梨日日新聞　掲載

県都の玄関口 31年ぶり一新

駅南口 利便性向上、9日に式典

31年ぶりに再整備されたJR甲府駅南口付近（7月29日）

再整備前のＪＲ甲府駅南口（2012年12月）＝いずれも山日ＹＢＳヘリ「ニュースカイ」（NEWSKY）から

JR甲府駅南口周辺の再整備がほぼ完了し、9日にオープニングセレモニーが行われる。かつての南口は、かいじ国体の開催に合わせて1986年に整備が完了しており、「県都の玄関口」が31年ぶりにリニューアルされた。

再整備前の2012年12月撮写真を比べると、ロータリーと、再整備後の今年7月の空一は大きく変化。以前はバスやタクシー、一般車両が同じロータリーに乗り入れていたが、現在は公共交通と一般車両のロータリーが別になった。以前は駅ビルの真正面にある横断歩道を渡ってバス乗り場まで行く必要があったが、現在は歩道に沿ってバス乗り場が整備されている。

現在の写真で目を引くのは駅前に設けられた白いシェルター。西側の一般車両のロータリーまで続いており、強い日差しを遮り、雨にぬれることなく、バスやタクシー、車に乗ることができる。

現在のロータリー東側には、緑のケヤキが鮮やかな駅前広場が見える。ケヤキの周囲にはベンチがあり、駅利用客らがひと休みすることができる。

駅から亜和通り方面に目を向けると、縦横斜めに走る横断歩道が目に入る。以前は、道路や円形の植栽帯などがあった。スクランブル交差点化することで歩行者の利便性向上が図られた。

信玄公像前では現在、水が流れるモニュメントが建設されている。9月ごろの完成が予定されており、モニュメント建設と仮設のバス案内所の撤去が終われば、13年度から始まった再整備事業が全て完了する。

2017年8月9日
完成セレモニー　テープカット

2017年8月10日
山梨日日新聞　掲載

9日から業務を始めた甲府市観光案内所

観光、移動 快適に

新生 甲府駅南口

宝石や山をイメージした外観の「甲府市観光案内所・バスセンター」

新施設 業務スタート

JR甲府駅南口周辺の再整備がほぼ完了し、県と甲府市は9日、駅前広場のオープニングセレモニーを行った。甲府市とバス事業者が整備した「市観光案内所・バスセンター」も同日から業務を始めた。

県都市計画課によると、南口の再整備は2013年度に着工。信玄公像前の水が流れるモニュメントの建設と、仮設のバス案内所の撤去を除き再整備が完了した。

市観光案内所・バスセンターは駅前広場にあり、宝石と山々をイメージした外観となっている。市観光案内所には英語や中国語といった外国語を話す職員が常駐する。高速バスの予約や乗車券の発券などを行うバスセンターは10日から業務を始める。

テープカットなどがあったオープニングセレモニー＝いずれもJR甲府駅南口

オープニングセレモニーには後藤斎知事や樋口雄一甲府市長、国会議員、県議ら約130人が出席。後藤知事は「新たな県都の玄関口が世界中から多くの人を迎えるとともに、個性あふれる文化や産業の発信地となることを期待したい」とあいさつ。樋口市長も「新しくなった広場にふさわしく、観光案内所とバスセンターは、多くの観光客にとって快適に利用できる施設になっている」と話した。テープカットやくす玉を割って完成を祝った。〈本田未来〉

受賞歴・報道資料

2018年2月15日
竣工セレモニー　テープカット

甲府駅南口　斜行エレベーター供用開始

障害者らに配慮、24時間稼働

甲府市がJR甲府駅南口に整備を進めてきたエレベーターが完成し、15日に供用が始まった。階段だった場所を活用して傾斜に合わせて昇降する「斜行型」で、24時間利用できる。障害者団体が市に求めていたバリアフリー化に対応した。市は今後エスカレーターも改修し、3月上旬から24時間使えるようにする。〈小林恭子〉

エレベーターは西側の階段だった部分に設置し、定員は11人。前後に扉が付いている。垂直型のエレベーターを整備するには駅ビル内の店舗の移転が必要になるほか、階段下に梁があり撤去すると耐震強度を維持できないことなどから、斜行型を採用した。事業費は、国や県からの補助金を含め約3億4千万円。

これまで駅南口のエレベーターは駅ビル内にしかなく、営業時間外に使うことができなかった。階段部分に設けていた車いす昇降装置の利用は駅員への連絡などに時間がかかり、駅を利用する障害者らの負担が大きかった。

この日は竣工記念式典が行われ、関係者ら約100人が出席。樋口雄一市長が「駅前広場や市観光案内所、バスセンターとともに駅の利便性向上や市の観光振興に寄与できると確信している」とあいさつした後、関係者がテープカットをして完成を祝った。

身体障害者とボランティアでつくる団体「支えあう会ピーチ&グレープ」の芦沢茂夫代表は「斜行型には初めて乗ったが、快適で乗り降りもスムーズにできた。今までの不便が解消されてありがたい」と感想を話した。

市民から要望のあったエスカレーターの24時間稼働については、20日夜から改修工事を行う。それに伴い3月上旬までは上り下りとも利用できなくなる。

斜行型のエレベーターの側面。右側の壁の奥を斜めに進む

スマホで動画 MOVIE

供用を始めた甲府駅南口エレベーター

2018年2月16日
山梨日日新聞　掲載